

福川康之, 西田裕紀子, 安藤富士子, 今井具子, 中村美詠子, 下方浩史: 中高年期の抗酸化ビタミン摂取と認知機能との関連. 第 16 回日本疫学会大会. 名古屋. 2006 年 1 月 24 日.

下方浩史: 長寿と栄養. 第 3 回健康長寿食品研究会. 名古屋. 2006 年 1 月 17 日.

西田裕紀子, 新野直明, 福川康之, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住高齢者の抑うつに関連要因—日常活動能力に着目して—. 第 12 回日本未病システム学会. 大阪. 2006 年 1 月 27 日.

安藤富士子, 小坂井留美, 道用亘, 下方浩史: 閉経女性の体力と骨密度の関連に MMP-12(A-82G) が及ぼす影響. 第 12 回日本未病システム学会. 大阪. 2006 年 1 月 28 日. 第 12 回日本未病システム学会抄録集, p79.

今井具子, 中村美詠子, 安藤富士子, 下方浩史: 栄養調査における栄養補助食品について—栄養素を含む処方薬の実態—. 第 16 回日本疫学会大会. 名古屋. 2006 年 1 月 24 日.

道用 亘, 小坂井留美, 安藤富士子, 下方浩史: 中高年者における歩行中の床反力特性—加齢変化とその性差. 第 16 回日本疫学会大会. 名古屋. 2006 年 1 月 23 日.

小坂井留美, 北村伊都子, 甲田道子, 道用亘, 安藤富士子, 下方浩史: 中高年者

における筋量と脂肪量による体格分類とその筋力特性 —Sarcopenia の評価に向けた基礎的検討—. 第 16 回日本疫学会大会. 名古屋. 2006 年 1 月 23 日.

下方浩史: 老年学. 富山県栄養士会講演. 富山. 2006 年 2 月 19 日.

Kozakai R, Kitamura I, Koda M, Doyo W, Ando F, Shimokata H: The relationship between body composition and physical activity in Japanese middle-aged and elderly. Sixth International Conference on Dietary Assessment Methods. Copenhagen, April 27-29, 2006.

Imai T, Nakamura M, Ando F, Shimokata H: Nutrient assessment of dietary supplement and medicine (prescription and non-prescription), The sixth international conference on dietary assessment methods. Copenhagen, Denmark, April 29, 2006.

Ando F, Kitamura I, Kozakai R, Imai T, Shimokata H: Impact of Obesity-related Factors on Urinary Incontinence in the Middle-aged and Elderly Women. The 6th International Conference on Dietary Assessment Methods. Copenhagen, Denmark, April 29, 2006.

下方浩史: 栄養疫学の手法を用いた根拠の蓄積と栄養教育への応用. シンポジウ

ム7 人間栄養学による根拠と栄養教育への応用. 第60回日本栄養・食糧学会、静岡、2006年5月21日.

下方浩史：食生活と長寿. 市民公開シンポジウム 高齢者の健康と食. 第48回日本老年医学会総会. 金沢. 2006年6月7日.

480) 小坂井留美, 北村伊都子, 甲田道子, 道用亘, 安藤富士子, 下方浩史：中高年者における筋量と脂肪量による体格分類と身体活動量との関連. 第48回日本老年医学会総会. 金沢. 2006年6月8日.

安藤富士子, 福川康之, 中村美詠子, 下方浩史：大豆由来イソフラボン摂取量と認知機能との関連-横断的検討-. 第48回日本老年医学会総会. 金沢. 2006年6月9日.

北村伊都子, 小坂井留美, 甲田道子, 安藤富士子, 下方浩史：中高年者の身体組成とサルコペニアの分布についての横断的検討. 第48回日本老年医学会総会. 金沢. 2006年6月7日.

中村美詠子, 安藤富士子, 下方浩史(疫学研究部) 栄養と骨密度との関連に及ぼす Interleukin-6 遺伝子多型の影響. 第48回日本老年医学会総会. 金沢. 2006年6月8日.

道用亘, 小坂井留美, 安藤富士子, 下方浩史：中高年者における歩行中の両脚支

持時間と床反力ピーク値との関連. 第48回日本老年医学会総会. 金沢. 2006年6月9日.

松井康素, 竹村真理枝, 原田敦, 安藤富士子, 下方浩史：地域在住中高年者の骨密度に関する縦断的研究-(2)-骨塩量、計測面積変化の分けての解析. 第24回日本骨代謝学会学術集会、東京、2006年7月8日.

竹村真理枝, 松井康素, 原田敦, 安藤富士子, 下方浩史：地域在住中高年者の骨密度に関する縦断的研究-(1)-. 第24回日本骨代謝学会学術集会、東京、2006年7月6日.

葛谷雅文, 安藤富士子, 井口昭久, 下方浩史：メタボリックシンドローム発症率の加齢変化ならびに過去16年間の発症率の動向-10万人の16年間の縦断的解析結果から. シンポジウム3 メタボリックシンドローム：診断基準から1年間を経過して. 第38回日本動脈硬化学会. 東京、2006年7月13日. 抄録集126.

下方浩史：健康長寿のための実践活動. 特別講演第52回東海公衆衛生学会学術大会. 大府. 2006年7月22日.

Kitamura I, Koda M, Ando F, Shimokata H Associations of serum testosterone with obesity and insulin resistance in the middle-aged and elderly Japanese men. The 10th

International Congress on Obesity.
Sydney, Australia, September 7, 2006.

Koda M, Kitamura I, Imai M, Ando F,
Shimokata H, Miyasaka K, Funakoshi
A: The polymorphisms in
cholecystokinin 1 receptor was
associated with midlife weight gain in
women. The 10th International
Congress on Obesity. Sydney, Australia,
September 7, 2006.

西田裕紀子, 福川康之, 丹下智香子, 安
藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年男
性の認知機能と喫煙習慣に関する縦断的
検討. 第 17 回日本老年医学会東海地方
会, 愛知, 2006 年 9 月 9 日.

竹村真理枝, 松井康素, 原田敦, 安藤富
士子, 下方浩史: 地域在住中高年者の骨
密度に関する縦断研究 (6 年間). 第 17
回日本老年医学会東海地方会, 愛知,
2006 年 9 月 9 日.

西田裕紀子, 新野直明, 福川康之, 安藤
富士子, 下方浩史: 地域在住高齢者の転
倒恐怖感と Quality of life に関する疫学
研究. 転倒予防医学研究会第 3 回研究集
会, 東京, 2006 年 10 月 1 日.

竹村真里枝, 松井康素, 原田敦, 安藤富
士子, 下方浩史: 地域在住中高年者の骨
代謝マーカーによる骨量減少/骨粗鬆症
予測. 第 8 回日本骨粗鬆症学会, 東京,
2006 年 10 月 13 日

松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 安藤富
士子, 下方浩史: 血清脂質と骨密度との
関係の検討. 第 8 回日本骨粗鬆症学会,
東京, 2006 年 10 月 13 日

丹下智香子, 西田裕紀子, 福川康之, 安
藤富士子, 下方浩史: 成人中・後期にお
ける死に対する態度 (7). 日本心理学
会第 70 回大会. 福岡, 2006 年 11 月 3 日

福川康之, 新野直明, 西田裕紀子, 丹下
智香子, 安藤富士子, 下方浩史: 運動介
入プログラムの実践による地域高齢者の
転倒予防と心身機能の維持に関する研究.
日本心理学会第 70 回大会. 福岡, 2006 年
11 月 3 日

安藤富士子, 北村伊都子, 甲田道子, 大
藏倫博, 下方浩史: 一般地域住民におけ
る腹部肥満感受性因子の網羅的検討.
第 13 回日本未病システム学会学術集会,
東京, 2006 年 12 月 2 日

下方浩史, 安藤富士子, 北村伊都子, 甲
田道子, 大藏倫博: 加齢とメタボリック
シンドローム—年齢別にみたメタボリッ
クシンドロームのウエスト基準値の妥当
性—. 第 13 回日本未病システム学会学
術集会. 東京, 2006 年 12 月 2 日

西田裕紀子, 丹下智香子, 福川康之, 安
藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年者・
高齢者のエピソード記憶に関する横断的
検討. 第 13 回日本未病システム学会学
術集会. 東京, 2006 年 12 月 2 日

杉浦彩子、内田育恵、中島 務、安藤富士子、下方浩史（疫学研究部）脳梗塞の耳鳴に及ぼす影響.第 127 回日耳鼻東海地方部会連合講演会. 2006 年 12 月 10 日.

小坂井留美, 北村伊都子, 道用亘, 金興烈, 甲田道子, 安藤富士子, 下方浩史（疫学研究部）中高年者における加齢に伴う筋力低下と筋量および脂肪量との関連—Sarcopenia 指標の作成に向けた基礎的検討 II—, 第 17 回日本疫学会. 広島. 2007 年 1 月 27 日.

道用 亘、金興烈、小坂井留美、安藤富士子、下方浩史：地域在住中高年者における歩行中の両脚支持時間と歩幅との関連. 第 17 回日本疫学会. 広島、2007 年 1 月 27 日.

下方浩史：「長寿と肥満」—疫学調査を中心に—. 名古屋市保健所長会講演会. 名古屋、2007 年 1 月 30 日.

下方浩史：運動と年齢-内科系. 日本医師会認定健康スポーツ医研修会. 名古屋、2007 年 2 月 25 日.

丹下智香子、西田裕紀子、福川康之、安藤富士子、下方浩史：成人中・後期の主観的幸福感—「生活満足度尺度 K」による検討—. 日本発達心理学会第 18 回大会、埼玉、2007 年 3 月 25 日.

今井具子、大塚礼、中村美詠子、安藤富士子、下方浩史：写真撮影併用が 3 日間食事調査に有用であるか. 第 61 回日本

栄養・食糧学会. 京都. 2007 年 5 月 20 日.

小坂井留美, 北村伊都子, 甲田道子, 道用亘, 安藤富士子, 下方浩史：加齢に伴う筋力と筋量の関係の変化. 第 49 回日本老年医学会総会. 札幌. 2007 年 6 月 22 日.

北村伊都子, 小坂井留美, 甲田道子, 安藤富士子, 下方浩史：中高年者の身体組成の縦断的検討—6 年間の四肢筋量の変化. 第 49 回日本老年医学会総会. 札幌. 2007 年 6 月 21 日.

丹下智香子, 西田裕紀子, 福川康之, 安藤富士子, 下方浩史：成人後期の主観的幸福感; 「生活満足度尺度 K」と対人関係の関連. 第 49 回日本老年社会科学大会. 札幌. 2007 年 6 月 22 日.

金 興烈、道用 亘、小坂井留美、安藤富士子、下方浩史：下肢への力学的負荷（長軸方向床反力）と骨密度の関係. —中高年者の歩行動作解析より— 第 49 回日本老年医学会総会. 札幌. 2007 年 6 月 22 日.

道用亘、金興烈、小坂井留美、安藤富士子、下方浩史：中高年者における歩行中の両脚支持時間と下肢関節角度範囲との関連. 第 49 回日本老年医学会総会. 札幌. 2007 年 6 月 22 日.

Kozakai R, Kitamura I, Doyo W, Kim HY, Koda M, Ando F, Shimokata H:

The relationship between body composition and age-related changes in muscle strength over 6 years. The European College of Sport Science, Jyväskylä. Finland, July 2007.

下方浩史：特別講演。老年医学における新たな戦略。第3回京都抗加齢医学フォーラム。京都。2007年6月7日。

下方浩史：運動と年齢・内科系。日本医師会認定健康スポーツ医研修会。名古屋、2007年6月10日。

下方浩史、安藤富士子：日本人のテストステロン（ワークショップ5「男性更年期—テストステロンの医学」）。第7回日本抗加齢学会。京都。2007年7月21日

Imai T, Otuka R, Nakamura M, Ando F, Shimokata H: Advantages of taking photographs in the 3-day dietary record, The 10th European Nutrition Conference. Paris, July, 2007.

Kim HY, Doyo W, Kozakai R, Aizawa H, Ando F, Shimokata H: The relations between bone mineral density (BMD) and mechanical loads applied to the lower limbs during gait in middle-aged and elderly Japanese. The 21th International Society of Biomechanics Congress. Taiwan, July1-5, 2007.

北村伊都子、小坂井留美、安藤富士子、下方浩史：地域在住中高年者における6年間

の身体組成の変化—性、年代、閉経期別の四肢筋量変化の特徴—。2007年度若手の会。2007年8月28日。

丹下智香子、西田裕紀子、福川康之、安藤富士子、下方浩史：成人中・後期における死に対する態度の加齢に伴う変化。2007年度若手の会。2007年8月28日。

下方浩史：運動と年齢・内科系。日本医師会認定健康スポーツ医研修会。名古屋、2007年9月1日。

下方浩史：老化とその要因。日本ヒューマン・ケア心理学会第9回大会研修会。名古屋。2007年9月8日。

相沢博子、道用亘、金興烈、小坂井留美、安藤富士子、下方浩史：中高年者の歩行動作と転倒経験との関連。第18回日本老年医学会東海地方会、名古屋、2007年9月8日。

杉浦彩子、内田育恵、吉岡真弓、中島務、安藤富士子、下方浩史：中高年齢者における耳鳴と聴力に関する検討。第130回東海地方部会連合講演会 愛知。2007年9月9日。

内田育恵、杉浦彩子、吉岡真弓、中島務、安藤富士子、下方浩史：糖尿病指標と聴力の関連。第130回東海地方部会連合講演会 愛知。2007年9月9日

小坂井留美、北村伊都子、道用亘、甲田道子、安藤富士子、下方浩史：中高年者

における日常生活活動度と筋力との関連.
第 62 回日本体力医学会, 秋田, 2007 年

下方浩史: 高齢者の聴力に個人差が大きいのは何故かー全身の老化との関係においてー. 学術講演会臨床セミナー、第 52 回日本聴覚医学会総会、名古屋、2007 年 10 月 4 日.

下方浩史、安藤富士子、西田裕紀子、丹下智香子: シンポジウム II: 未病としての軽度認知症 1) 生活習慣の是正. 第 14 回日本未病システム学会学術総会、金沢、2007 年 11 月 2 日.

安藤富士子、今井具子、北村伊都子、大塚礼、下方浩史: 地域在住中高年者の耐糖能と果物摂取量に関する横断的検討. 第 14 回日本未病システム学会学術総会、金沢、2007 年 11 月 2 日.

西田裕紀子、丹下智香子、福川康之、安藤富士子、下方浩史: 地域在住中高年者・高齢者の生活の質 - WHO QOL26 を用いた検討 - . 第 14 回日本未病システム学会学術総会、金沢、2007 年 11 月 2 日.

丹下智香子、西田裕紀子、安藤富士子、下方浩史: 地域在住男女高齢者の主観的幸福感に傷病経験が及ぼす影響の検討. 第 14 回日本未病システム学会学術総会、金沢、2007 年 11 月 2 日.

Ando F, Nishita Y, Imai T, Tange C, Fukukawa Y, Shimokata H: The interactive effect of soy isoflavones

with docosahexaenoic acid on intelligence among the middle-aged and elderly Japanese. The 8th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics. Beijing, October 22, 2007.

Nishita Y, Fukukawa Y, Tange C, Ando F, Shimokata H: Leisure activities and intelligence among Japanese middle-aged and elderly. The 8th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics. Beijing, October 24, 2007.

Fukukawa Y, Nishita Y, Tange C, Ando F, Shimokata H: Financial strain and psychological distress among Japanese older adults. The 8th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics. Beijing, October 22, 2007.

Shimokata H: Comprehensive studies on aging in a community-living population. The 3rd International Symposium on Geriatrics and Gerontology "Epidemiological Studies on Aging". Obu, November 15, 2007.

松井康素、竹村真里枝、原田敦、安藤富士子、下方浩史: 地域在住女性の閉経期前後における骨密度変化の縦断研究ー骨塩量、計測面積に分けた変化様式の検討ー. 第 9 回日本骨粗鬆症学会、東京、2007 年 11 月 14 日.

竹村真里枝、松井康素、原田敦、安藤富士子、下方浩史：地域在住中高年者の骨粗鬆症有病率、治療適応率、治療率の検討。第9回日本骨粗鬆症学会、東京、2007年11月14日。

竹村真里枝、松井康素、原田敦、安藤富士子、下方浩史：地域在住中高年者における骨密度変化の縦断的検討(6年間)。第80回日本整形外科学会学術総会、神戸、2007年5月24日。

北村伊都子、安藤富士子、甲田道子、下方浩史：中高年男性における肥満指標と血清テストステロン濃度の関連への喫煙の影響、第18回日本疫学会学術総会、東京、2008年1月26日。

道用 亘、相沢博子、金興烈、小坂井留美、新野直明、安藤富士子、下方浩史：中地域在住中高年者における通常歩行中の足関節トルクと転倒との関連、第18回日本疫学会学術総会、東京、2008年1月25日。

中川正法。第46回日本神経学会総会 シンポジウム2 痴呆症の新たな治療戦略「痴呆症の治療－オーバービュー－」平成17年5月25日、鹿児島

鈴木隆雄、吉田英世、金 憲経：地域在宅高齢者における老年症候群と生命予後についての追跡研究、第47回日本老年医学会、東京、2005.6.15

鈴木隆雄、権珍嬉、吉田英世、金憲経、古名丈人、杉浦美穂、新開省二、熊谷修、藤原佳典、西澤哲、吉田祐子、岩佐一。老化による身体機能と精神機能の変化－TMIG-LISA10年間の追跡研究から－。第64回日本公衆衛生学会。北海道札幌市。2005.14-16

Kondo M, Mizuno T, Watanabe Y, Harada S, Takeda K, Nakagawa M. Clinical risk factors for Dementia of Alzheimer type in Japanese memory clinic. IPA 2007 Osaka Silver Congress. October, 2007, Osaka.

西萩恵、近藤正樹、鈴木直人、中川正法。2年間にわたる軽症認知障害患者への早期介入の試み。第9回日本早期認知症学会大会。2007年9月15日；福井。

近藤正樹、水野敏樹、中川正法。新修正 Wisconsin card sorting test で示されるMCI患者の高次脳機能障害と脳血流低下の検討。第49回日本老年医学会学術集会。2007年6月21日；札幌。

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし

Ⅱ. 研究成果の刊行に 関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻数	ページ	出版年
小笠原仁美、新野直明、 安藤富士子、下方浩史	中年期地域住民における転倒の発生状況	保健の科学	47(4)	301-305	2005
Miyasaka K, Kawanami T, Shimokata H, Ohta S, Funakoshi A	Inactive aldehyde dehydrogenase-2 increased the risk of pancreatic cancer among smokers in a Japanese male	Pancreas	30(2)	95-98	2005
Shimokata H, Ando F, Niino N, Miyasaka K, Funakoshi A	Cholecystokinin A receptor gene promoter polymorphism and intelligence.	Ann Epidemiol	15(3)	196-201	2005
Uchida Y, Nakashima T, Ando F, Niino N, Shimokata H	Is there a relevant effect of noise and smoking on hearing?	Int J Audiol	44	86-91	2005
Iwao N, Iwao S, Muller DC, Koda M, Ando F, Shimokata H, Kobayashi F, Andres R	Differences in the relationship between lipid CHD risk factors and body composition in Caucasians and Japanese.	Int J Obes	29(2)	228-235	2005
Kozakai R, Doyo W, Tsuzuku S, Yabe K, Miyamura M, Ikegami Y, Ando F, Niino N, Shimokata H	Relationships of muscle strength and power with leisure-time physical activity and adolescent exercise in middle-aged and elderly Japanese women.	Geriatrics and Gerontolog y Internationa	5	182-188	2005
Okamura K, Ando F, Shimokata H	Serum total and free testosterone level of Japanese men: a population-based study	Int J Uro	12	810-814	2005
福川康之、西田裕紀子、 中西千織、坪井さとみ、 新野直明、安藤富士子、 下方浩史	友人との死別が成人期の抑うつに及ぼす影 響—年齢および家族サポートの調節効果—	心理学研 究	76(1)	10-17	2005
道用亘、小坂井留美、安 藤富士子、下方浩史、布 目寛幸、池上康男	中高年における歩行動作の特徴	総合保健 体育科学	28(1)	37-45	2005
Asano K, Nomura H, Iwano M, Ando F, Niino N, Shimokata H, Miyake Y	Relationship between astigmatism and aging in middle-aged and elderly Japanese	Jpn J Ophthalmol	49(2)	127-133	2005
小坂井留美、道用亘、安 藤富士子、下方浩史、池 上康男	中高年者における余暇身体活動および青 春期の運動経験と骨密度との関連	総合保健 体育科学	28(1)	1-7	2005
Kuzuya M, Kanda S, Koike T, Suzuki Y, Satake S, Iguchi A.	Lack of correlation between total lymphocyte count and nutritional status in the elderly.	Clin Nutr	24	427-432	2005
Kuzuya M, Kanda S, Koike T, Suzuki Y, Satake S, Iguchi A.	Evaluation of Mini-Nutritional Assessment for Japanese frail elderly	Nutrition	21	498-503	2005

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻数	ページ	出版年
安藤富士子	閉じこもりの心理的・社会的要因とその対策	日本リハビリテーション学会誌	42(10)	684-690	2005
吉田祐子, 杉浦美穂, 古名丈人, 吉田英世, 金憲経, 熊谷 修, 新開省二, 渡辺修一郎, 鈴木隆雄	地域在宅高齢者における運動習慣の継続と心拍数の縦断変化	体力科学	54(4)	295-304	2005
内田育恵, 下方浩史	高齢者と難聴—疫学調査の結果から	Aging and Health	14(1)	11-14	2005
中川正法	痴呆症の新たな治療戦略—治療 オーバービュー	臨床神経	45	857-860	2005
西田裕紀子, 新野直明, 小笠原仁美, 安藤富士子, 下方浩史	地域在住中高年者における転倒恐怖感の要因に関する縦断的検討	日本未病システム学会雑誌	11(1)	101-103	2005
Uchino M, Hirano T, Satoh H, Arimura K, Nakagawa M, Wakamiya J.	The severity of minamata disease declined in 25 years: temporal profile of the neurological findings analyzed by multiple logistic regression model.	Tohoku J Exp Med	205	53-63	2005
須藤慎治, 中川正法	Galantamine.	Current Therapy	24	246-250	2006
Yamada Y, Ando F, Shimokata H	Association of a microsomal triglyceride transfer protein gene polymorphism with blood pressure in Japanese women	Int J Mol Med	17(1)	83-88	2006
Suzuki Y, Ando F, Ohsawa I, Shimokata H, Ohta S	Association of alcohol dehydrogenase 2*1 allele with liver damage and insulin concentration in the Japanese.	J Hum Genet	51(1)	31-37	2006
下方浩史	超高齢者医療の重要性. 公衆衛生・社会医学的視点から	J Integrated Med	16(2)	102-105	2006
今井具子, 安藤富士子, 新野直明, 下方浩史	四訂および五訂日本食品標準成分表を用いて算出した栄養素等摂取量推定値の比較	日本栄養・食糧学会誌	59(3)	21-29	2006
Kuzuya M, Ando F, Iguchi A, Shimokata H	Effect of smoking habit on age-related changes in serum lipids: cross-sectional and longitudinal analysis in a Japanese large	Atherosclerosis	185(1)	183-199	2006
Ishizaki T, Yoshida H, Suzuki T, Watanabe S, Niino N, Ihara K, Kim H, Fujiwara Y, Shinkai S, Imanaka Y	Effects of cognitive function on functional decline among community-dwelling non-disabled older Japanese	Arch Gerontol Geriatr	42(1)	47-58	2006
Kozakai R, Doyo W, Ando F, Shimokata H	Age-related changes of postural stability and physical function in middle-aged and elderly Japanese	Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine	55(Suppl)	S227-230	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻数	ページ	出版年
Imai T, Nakamura M, Ando F, Shimokata H	Dietary supplement use by community-living population in Japan: Data from the National Institute for Longevity Sciences Longitudinal Study of Aging (NILS-LSA).	J Epidemiol	16(6)	249-260	2006
西田裕紀子, 新野直明, 福川康之, 安藤富士子, 下方浩史	地域在住高齢者の抑うつに関連要因-日常生活能力に着目して	日本未病システム学会雑誌	12(1)	101-104	2006
下方浩史	高齢者の生活習慣はどこまで是正すべきか	日本老年医学会雑誌	43(4)	462-464	2006
安藤富士子, 下方浩史	老化に関する長期縦断疫学調査の概要と栄養疫学的側面からみた中高年者の心理的健康	基礎老化学会誌	30(1)	9-14	2006
Uchida Y, Nakata S, Nakashima T, Niino N, Ando F, Shimokata H	Distortion product otoacoustic emissions and tympanometric measurements in an adult population-based study.	Auris Nasus Larynx	33(4)	397-401	2006
下方浩史	認知症による社会的負担	最新医学	61(12)	2368-2373	2006
安藤富士子, 福川康之, 西田裕紀子	知能の加齢変化	総合リハビリテーション	34(7)	643-648	2006
安藤富士子	高齢者の抑うつのしくみを探る-長期縦断疫学研究の結果から-	MediCafe	2(1)	8-9	2006
Kwon J, Suzuki T, Kumagai S, Shinkai S, Yukawa H	Risk factors for dietary variety decline among Japanese elderly in a rural community : a 8-year follow-up study from TMIG-LISA.	European Journal of Clinical Nutrition	30	305-311	2006
吉田祐子, 熊谷修, 岩佐一, 杉浦美穂, 金憲経, 吉田英世, 古名丈人, 藤原佳典, 新開省二, 渡辺修一郎, 鈴木隆雄	地域在住高齢者における運動習慣の定着に関連する要因	老年社会科学	28(3)	348-358	2006
Izawa S, Kuzuya M, Okada K, Enoki H, Koike T, Kanda S, Iguchi A	The nutritional status of frail elderly with care needs according to the mini-nutritional assessment.	Clin Nutr	25	962-967	2006
Kuzuya M, Masuda Y, Hirakawa Y, Iwata M, Enoki H, Hasegawa J, Iguchi A	Day-care service use is associated with lower mortality among community-dwelling frail elderly.	J Am Geriatr Soc	54	1364-1371	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻数	ページ	出版年
Kuzuya M, Masuda Y, Hirakawa Y, Iwata M, Enoki H, Hasegawa J, Izawa S, Iguchi A	Falls of the elderly are associated with burden of caregivers in community.	Int J Geriatr Psychiatry	21	740-745	2006
Kuzuya M, Masuda Y, Hirakawa Y, Iwata M, Enoki H, Hasegawa J, Cheng XW, Iguchi A	Underuse of medications for chronic diseases in the oldest of community-dwelling older frail Japanese.	J Am Geriatr Soc	54	598-605	2006
西萩 恵、近藤正樹、橋本 幸、中川正法。	WAIS-Rのプロフィールを用いた mild cognitive impairment とアルツハイマー型痴呆の比較	認知神経科学	8	61-66	2006
Tabata H, Anwar M, Horai S, Ando T, Nakano A, Wakamiya J, Koriyama C, Nakagawa M, Yamada K, Akiba S.	Toenail arsenic levels among residents in Amami-Oshima Island, Japan.	Environ Sci	13	149-160	2006
Nakata-Kudo Y, Mizuno T, Yamada K, Shiga K, Yoshikawa K, Mori S, Nishimura T, Nakajima K, Nakagawa M.	Microbleeds in Alzheimer Disease Are More Related to Cerebral Amyloid Angiopathy than Cerebrovascular Disease.	Dement Geriatr Cogn Disord	22	8-14	2006
下方浩史	老化および老年病の疫学的研究	Geriatric Medicine	45(1)	13-17	2007
竹村真里枝、松井康素、原田敦、安藤富士子、下方浩史	地域在住中高者年の骨代謝マーカーによる骨量減少/骨粗鬆症予測	Osteoporosis Japan	15(1)	28-32	2007
下方浩史	長寿科学総合研究の代表的な研究の紹介。"老化とその要因に関する長期縦断的疫学研究"の概要について。シリーズ最前線。厚生労働科学研究37。	週間社会保障	2423	61	2007
Kwon J, Suzuki T, Yoshida H, Kim H, Yoshida H, Iwasa H, Sugiura M, Furuna T	Association between change in bone mineral density and decline in usual walking speed among Japanese community elderly women during 2-year follow-up.	Journal of the American Geriatrics Society	55	240-244	2007
Kuzuya M, Ando F, Iguchi A, Shimokata H	Age-specific change of prevalence of metabolic syndrome: Longitudinal observation of large Japanese cohort.	Atherosclerosis	191	305-313	2007
下方浩史、安藤富士子、北村伊都子、甲田道子、大藏倫博	加齢とメタボリックシンドローム—年齢別にみたメタボリックシンドロームのウエスト基準値の妥当性—	日本未病システム学会雑誌	13(1)	136-138	2007

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻数	ページ	出版年
安藤富士子、北村伊都子、甲田道子、大藏倫博、下方浩史	一般地域住民における腹部肥満感受性因子の網羅的検討	日本未病システム学会雑誌	13(1)	144-147	2007
西田裕紀子、福川康之、丹下智香子、安藤富士子、下方浩史	地域在住中高年者・高齢者のエピソード記憶に関する横断的検討	日本未病システム学会雑誌	13(1)	74-77	2007
下方浩史	食生活と長寿	日本老年医学会雑誌	44(2)	209-211	2007
Yamada Y, Ando F, Shimokata H	Association of gene polymorphisms with blood pressure and the prevalence of hypertension in community-dwelling Japanese individuals.	Int J Mol Med	19(4)	675-683	2007
Yamada Y, Ando F, Shimokata H	Association of candidate gene polymorphisms with bone mineral density in community-dwelling Japanese women and men.	Int J Mol Med	19	791-801	2007
Kitamura I, Ando F, Koda M, Okura T, Shimokata H	Effects of the interaction between lean tissue mass and estrogen receptor a gene polymorphism on bone mineral density in middle-aged and elderly Japanese.	Bone	40	1623-1629	2007
Kuzuya M, Ando F, Iguchi A, Shimokata H	No association between rs7566605 variant and obesity in Japanese.	Obesity	15(11)	1623-1629	2007
Roriz-Cruz M, Rosset I, Wada T, Sakagami T, Ishine M, De Sá Roriz-Filho J, Cruz TR, Hosseinkhani M, Rodrigues RP, Sudoh S, Arai H, Wakatsuki Y, Souza AC, Nakagawa M, Kita T, Matsubayashi K.	Cognitive impairment and frontal-subcortical geriatric syndrome are associated with metabolic syndrome in a stroke-free population.	Neurobiol Aging	28	1723-1736	2007
Izawa S, Enoki H, Hirakawa Y, Masuda Y, Iwata M, Hasegawa J, Iguchi A, Kuzuya M.	Lack of body weight measurement is associated with mortality and hospitalization in community-dwelling frail elderly.	Clin Nutr	26	764-770	2007
Kuzuya M, Izawa S, Enoki E, Okada K, Iguchi A	Is serum albumin a good marker for malnutrition in the physically impaired elderly ?	Clin Nutr	26	84-90	2007
Enoki H, Kuzuya M, Masuda Y, Hirakawa Y, Iwata M, Hasegawa J, Izawa S, Iguchi A.	Anthropometric measurements of mid-upper arm as a mortality predictor for community-dwelling Japanese elderly: The Nagoya Longitudinal Study of Frail Elderly (NLS-FE).	Clin Nutr.	26	597-604	2007

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻数	ページ	出版年
Enoki H, Hirakawa Y, Masuda Y, Iwata M, Hasegawa J, Izawa S, Iguchi A, Kuzuya M	Association between feeding via percutaneous endoscopic gastrostomy and low level of caregiver burden.	J Am Geriatr Soc.	55	1484-1486	2007
今井具子、安藤富士子	アンチエイジングのための食事	臨床プラクティス	26(7)	536-540	2007
安藤富士子	「美味しい」食生活	果実日本	62(11)	1	2007
下方浩史	我が国におけるアルツハイマー病の疫学研究. アルツハイマー病－基礎研究から予防・治療の新しいパラダイム－	日本臨床	66(suppl 1)	23-27	2008
下方浩史、安藤富士子	疾患ゲノム研究の現況:骨粗鬆症	Clinical Calcium	18(2)	155-161	2008
松井康素、下方浩史	ビタミンAと骨	THE BONE	22(1)	41-45	2008
Sugiura S, Uchida Y, Nakashima T, Yoshioka M, Ando F, Shimokata H	Tinnitus and brain MRI findings in Japanese elderly.	Auris Nasus Larynx			印刷中
下方浩史、安藤富士子	高齢者の肥満と動脈硬化	Geriatric Medicine			印刷中
下方浩史	縦断研究の意義	子どもと発育発達			印刷中
安藤富士子、下方浩史	臨床面接で把握する骨粗鬆症の危険因子:疫学研究の成果を生かして	Medicina			印刷中
下方浩史、安藤富士子	疾患ゲノム研究の現況:骨粗鬆症	Clinical Calcium			印刷中
下方浩史、安藤富士子、西田裕紀子、丹下智香子	未病としての軽度認知症－生活習慣の是正	日本未病システム学会雑誌			印刷中
西田裕紀子、丹下智香子、福川康之、安藤富士子、下方浩史	地域在住中高年齢者・高齢者の生活の質－WHO QOL26を用いた検討－	日本未病システム学会雑誌			印刷中
丹下智香子、西田裕紀子、安藤富士子、下方浩史	地域在住男女高齢者の主観的幸福感に傷病経験が及ぼす影響の検討	日本未病システム学会雑誌			印刷中

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻数	ページ	出版年
安藤富士子、今井具子、 北村伊都子、大塚礼、下 方浩史	地域在住中高年者の耐糖能と果物摂取量 に関する横断的検討	日本未病シ ステム学会 雑誌			印刷中
Yamada Y, Ando F, Shimokata H	Association of genetic variants of MAOA and SH2B1 with bone mineral density in community-dwelling Japanese women.	Mol Med Rep			印刷中
Yamada Y, Ando F, Shimokata H	Association of genetic variants of APOA5 and PRKCH with hypertension in community-dwelling Japanese individuals.	Mol Med Rep			印刷中
Kuzuya M, Enoki H, Iwata M, Hasegawa J, Hirakawa Y.	J-shaped relationship between resting pulse rate and all-cause mortality of community- dwelling older people with disabilities.	J Am Geriatr Soc			印刷中
Kuzuya M, Hirakawa Y, Suzuki Y, Iwata M, Enoki H, Hasegawa J, Iguchi A	Association of unmet needs for medication support and all-cause hospitalization among community-dwelling disabled elderly.	J Am Geriatr Soc			印刷中

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
下方浩史	老化に対する遺伝的要因と生活習慣の関わり	長寿科学振興財団	Advances in Aging and Health Research 2005 のぼそ健康寿命ー老化と老年病を防ぎ、介護状態を予防する。	長寿科学振興財団	愛知	2005	19-28
下方浩史	高齢者の定義および人口動態	大内尉義	老年学(第2版). 標準理学療法・作業療法学. 専門基礎分	医学書院	東京	2005	37-44
下方浩史	高齢者の栄養と食生活	沖増 哲	ウエルネス公衆栄養学 第6版	医歯薬出版	東京	2005	199-210
下方浩史	栄養疫学の考え方と方法	沖増 哲	ウエルネス公衆栄養学 第6版	医歯薬出版	東京	2005	35-60
下方浩史	公衆栄養学における情報処理をどうおこなうか	沖増 哲	ウエルネス公衆栄養学 第6版	医歯薬出版	東京	2005	64-70
下方浩史、安藤富士子	老いるということ/個人差	井藤英喜	看護のための最新医学講座(第2版) 第17巻	中山書店	東京	2005	56-61
安藤富士子、坪井さとみ	高齢期の心とからだ	上里一郎,末松弘行,田畑治,西村良二,丹羽真一	メンタルヘルス事典	同朋舎	京都	2005	235-242
安藤富士子	昼夜逆転のケア	山口徹、北原光夫、福井次矢	今日の治療指針 2006	医学書院	東京	2006	1116-1117
小坂井留美、下方浩史	スポーツと長寿	長寿科学健康財団	Advances in Aging and Health Research 2006 健康長寿と運動	長寿科学健康財団	愛知	2006	7-13
下方浩史	EURODEM	平井俊策	老年期痴呆ナビゲーター	メディカルレビュー社	東京	2006	74-75
安藤富士子、今井具子、下方浩史	抑うつと栄養	津志田藤二郎、高城孝助、小久保貞之、横山理雄	アクティブシニア社会の食品開発指針	Science Forum	東京	2006	172-175
安藤富士子、中村美詠子	骨と栄養	津志田藤二郎、高城孝助、小久保貞之、横山理雄	アクティブシニア社会の食品開発指針	Science Forum	東京	2006	128-137
安藤富士子	高齢者の看護・介護	飯島節、鳥羽研二	老年医学テキスト	南江堂	東京	2006	225-234

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版 年	ページ
下方浩史	高齢者における臨床検査	並木昭義	日常診療に役立つ 高齢者の周術期管 理	真興交易 医書出版 部	東京	2007	218-226
下方浩史	栄養疫学	沖増 哲	ウェルネス栄養疫学 改訂第7版	医歯薬出 版	東京	2007	57-79
下方浩史	老化度の判定	日本老年医 学会	老年医学テキスト改 訂第3版	メジカル ビュー社	東京		印刷中
下方浩史	老年者の基準値	日本老年医 学会	老年医学テキスト改 訂第3版	メジカル ビュー社	東京		印刷中
下方浩史	異常値の評価	日本老年医 学会	老年医学テキスト改 訂第3版	メジカル ビュー社	東京		印刷中
下方浩史	自律神経系	鈴木隆雄、衛 藤 隆	からだの年齢事典	朝倉書店	東京		印刷中
安藤富士 子、今井具 子、下方浩 史	食事・栄養と中高年男性の 健康 ―栄養疫学の立場 から―	熊本悦明、堀 江重郎	更年期から熟年期ま での男性医学―中 高年のMen's Health を支えるために―	ライフサイ エンス社	東京		印刷中

Ⅲ. 研究成果の 刊行物・別刷

中年期地域住民における 転倒の発生状況

小笠原仁美

国立長寿医療センター研究所疫学研究部

新野 直明

桜美林大学大学院老年学

安藤富士子

国立長寿医療センター研究所疫学研究部

下方 浩史

国立長寿医療センター研究所疫学研究部

調査・研究

中年期地域住民における転倒の発生状況

小笠原仁美¹⁾、新野 直明²⁾、安藤富士子³⁾、下方 浩史⁴⁾

はじめに

高齢者の転倒は発生頻度が高く、種々の要因が複合して起こり、寝たきりの主要な原因といわれる¹⁾。転倒は在宅高齢者で20%弱²⁻⁴⁾、施設入居高齢者で13~37%⁵⁻⁷⁾と幅広い範囲で発生すると報告されているが、それよりも若い年齢層を対象とした転倒調査の報告はほとんどない。若い年齢層は転倒が少なく問題が小さいという可能性もあるが、実際に若年層や中年層で転倒の頻度が少ないかを検討した研究は少ない。死因における転倒・転落の割合は40代半ばから増加傾向にあるようにみえる⁸⁾。したがって、40~50代の中年期においても転倒は重要な事故といえるだろう。また高齢者の転倒の特徴を知る上で、それよりも若い世代の転倒の発生状況を知り、その結果と比較検討することは意義があると考えられる。そこで、われわれは40~50代の中年期の地域住民を対象に、転倒をした人の割合、発生時刻、場所などの発生状況に関する調査を行なった。

1. 方法

1) 調査対象

対象は愛知県大府市および東浦町在住の40~59歳の中から年齢・性別層化無作為抽出により選定された人で、国立長寿医療センター研究所疫学研究部の主催する老化に関する長期縦断疫学調査(National Institute for Longevity Sciences-Longitudinal Study of Aging: NLS-LSA)の第一次調査(1997年11月~2000年4月)に参加した1,130名(男性572名, 女性558名)である。NLS-LSAは、地域在住の中高齢者を対象に老化の進行について観察を行ない、老化に関する基礎データを蓄積し、老化や老年病の成因を疫学的に解明することを目的とした学際的な縦断的疫学調査である。NLS-LSAの詳細については他論文を参照されたい⁹⁾。なお、対象者に事前の説明会で、調査の目的・内容について詳しい説明を行ない、文書による同意を得た。本調査については現国立長寿医療センター研究所の倫理委員会にて承認を受けている(承認番号14)。

筆者：1) おがさわら ひとみ(国立長寿医療センター研究所疫学研究部)
2) にいの なおあきら(桜美林大学大学院老年学)
3) あんどう ふじこ(国立長寿医療センター研究所疫学研究部)
4) しもかた ひろし(国立長寿医療センター研究所疫学研究部)

0018-3342/05/¥250/論文/JCLS